

南十字星は 最も新しい星座

渡辺仁史



think the future from hitoshi watanabe lab.

●全天88星座のうち、84星座が見られる

●日本の最南端に位置する八重山諸島では、21個の一等星全てと88星座のうち84星座を見ることができます。周囲は海に囲まれ、大きな街がないため、街明かりが少なく、偏西風の影響を受けないため大気が安定しており、星が瞬かずにクリアに輝きます。加えて、夏の晴天率が高く、星空や天の川を見るのに最適な環境です。2018年3月には日本初の「星空保護区」として国際ダークスカイ協会に認定されました。

●本州などの北半球ではなかなか見られない「みなみじゅうじ座」特に明るいうつろの星で構成される「南十字星サザンクロス (Southern Cross)」が八重山諸島では見られます。八重山の方言で「はいむるぶし」と呼ばれるこの星座は、16世紀末に考案された新しい星座で、最も小さい星座でもあります。

●石垣島では南十字星を観測できますが、1年中ではなく、12月下旬から6月中旬ごろまでの約半年間です。観測できる時間帯は南中時刻の前後1時間程度ですが、季節によって日の入りと日の出時刻に伴い変わります。例えば、5月15日は南中時

刻が21:30ですが、6月1日は20:29となります。

●昔は日本の最南端である波照間島に行かないと見られないと言われていましたが、実際には八重山諸島からも見られていました。北半球では北極星が方位を知る目印となりますが、南半球では南十字星がその役割を果たしてきました。

●また、この星座に向かって願い事をすると願いが叶うという言い伝えがありますが、私は撮影に夢中でいつも忘れてしまいます。

●石垣島には、自然科学研究機構 国立天文台、石垣市、石垣市教育委員会、NPO 法人八重山星の会、沖縄県立石垣青少年の家、琉球大学が連携して運営する新しいタイプの天文台があります。そこで撮影された5月30日のタイムラプスをご覧ください。

https://murikabushi.jp/wp-content/uploads/2024/05/240530_sc.mp4



2024年5月15日、22時20分 石垣市南ぬ浜町公園より、南十字星を撮影しました。10秒ほどカメラを開放しました。